

モールス信号

野瀬 隆平

前に、和文のモールス信号について書いたことがある。

最初にアルファベットのモールス信号ができたのであるが、それを参考にしてどのように和文のイロハに対応する符合が作られたのか。自分なりに推理した過程を、「頭の体操」と題する文章にした。

簡単に云うと、A B C……の符合を順番に、イロハ……に当てはめていったのである。しかし、アルファベットは26文字であるのに対して、イロハは48文字であるから、そこには多少の工夫が必要であった。

これに続いて知りたいと思ったのは、そもそも最初にアルファベットに対応するトンとツの符合はどのように決められたのかということだ。当然、そこには何らかの合理的な考えがあった筈である。

ある文章を伝達する場合、出来るだけ少ないトンとツで短時間に打ち終えられれば良いと誰しも考えるであろう。正にその通りの方法が取られた。即ち、使用頻度の高い文字の順番に短い符合が充てられたのである。

例えば、Eならばトン、Tならばツ、のようにどちらかの一つにする。次に、トンとツの二つの組み合わせで、Aはトンツ、Nはツートンのように決めて行く。頻度の少ない文字には、四つのトンとツの組み合わせとなりZならばツーツートンとなる。

このように決められたアルファベットの符合を、そのまま機械的にイロハに充て行ったのであるから、和文のモールス信号では、よく使われる文字でも長い符合となる場合がある。例えば、比較的頻度が高いと思われる「コ」はツーツーツーツーとなっている。

ちなみに、アルファベットの符合の覚え方。Aのトンツは亜鈴、Bのツートントンはビートルズが一般的だという。

Vのトントントンツは、ヴィクトリーと覚える方法もあるが、ジャ/ジャ/ジャ/ジャーンは、ベートーベンの交響曲第五番「運命」の出だしのリズムだ。5のローマ数字はVという覚え方もある。色々面白いことが分かって来て興味は尽きない。